

AMBITIOUS #066  
NPO法人三重県生涯スポーツ協会  
キッズインストラクター

# 自分の思いを 伝えよう!

## 勤務先情報/ NPO法人三重県生涯スポーツ協会

- 住所 津市寿町18-15 CSビル6F
- URL <http://www.lifelong-sport.jp/>
- 勤務時間 スクールやイベントによる
- 休日 週休2日

アンビ  
ジャスの

### なるためには

- 必要資格 / 健康運動実践指導者 ※必須ではない
- 主な進路 / 高校卒業→体育系の専門学校や大学に進む→スポーツに関わるさまざまな資格を取得→スポーツ協会に勤務

### キッズインストラクター

#### — 学生時代

「高校時代は、サッカー部の思い出が多いですね。サッカーの技術だけでなく、スポーツに取り組む姿勢など、さまざまなことを学ぶことができました。他校へ試合に行ったとき、荷物や整理整頓されているか、その高校の印象が変わると思うんです。ほかには、いつもキレイに整頓するように心がけていました。卒業後は、津田体育専門学校に進みました」

#### — 専門時代について教えてください。

「インストラクターやトレーナーを養成する社会体育科に進み、体の発達の仕組み、骨や筋肉について、心理学や栄養学まで幅広く学びました。テーピングの巻き方やケガの対処法なども学びました。学校の隣に系列の幼稚園があり、授業の一環で子供に鉄棒や跳び箱、体操などの指導を補助する機会もあり、とてもいい環境で勉強することができたと思います。在学中には、日本赤十字社の救急法救急員やAFAAのキッズフィットネス、キャンピングインストラクターなど、さまざまな資格を取得しました」

#### — 仕事について

「専門学校卒業後は、三重県生涯スポーツ協会に働きはじめました。わたしたちは、スポーツ教室などを通して、国民の健康や地域の発展を目的とするNPO法人です。最初は、わくわくスポーツ体験など当協会が開催しているイベントに同行し、先輩からいろいろなことを学びました」



#### 先輩から教わったことは?

「子供だけでなく、親ともコミュニケーションを取りました。少し前までわたしは学生で、先生に指導してもらった立場でした。でもいまは、わたしが子供たちに指導する立場になってます。学生時代との立場の違いをしっかりと意識し、仕事に取り組みようになっています」

#### 現在の仕事内容を教えてください。

「さまざまな体験イベントやスポーツ教室を通し、子供たちに運動技術だけでなく、言葉づかいや礼儀など生活面のマナーを伝えていく仕事です。わたしはサッカーを担当しています。スクールやイベントがないときは、チラシやポスターをもって幼稚園などを回っています」

#### — やりがい

「子供たちが、自分の考えた練習メニューを一生懸命に取り組んで、できなかつたことができるようになってきた姿を見られると、とてもうれしいです。ほかには、子供たちから『楽しい』とか『ありがと』と言われると元気になるんです」

#### — なるためには

「健康運動実践指導者資格を取得しておく仕事に役立つと思います。王道なのは、体育の専門学校や大学に進み、専門知識や資格を取得して就職する方法です。また、学生時代に経験したインターンシップが役立つと思います。いまの職場にもお世話になり、本当にやりたい仕事は『コレだ!』って思いました。みなさんも積極的にいろいろな人と交流し、あいさつや言葉づかいに気を付けて高校生活を送ってください」

お忙しいところ、ありがとうございます。

## かとう まさき 加藤 雅己さん

平成7年生まれ 津田体育専門学校卒業

出身高校 津田学園高等学校

- 18歳 サッカー部に所属し、部活に励む。礼儀や整理整頓の大切さなども学ぶ。
- 20歳 津田体育専門学校に進み、インストラクターとしての基礎を学ぶ。
- 21歳 スポーツ指導をするだけでなく生活面の向上も計り、日々の仕事に励む。



AMBITIOUS #067  
株式会社ビコーインプレス  
総務(建築業)

感謝の気持ちを  
忘れずに

勤務先情報/ 株式会社ビコーインプレス

- 住所 四日市市羽津4350-1
- URL <http://www.biko-impress.com/>
- 勤務時間 8:30~17:30
- 休日 土曜日、日曜日、祝日

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→店舗や住宅の設計・施工などをおこなう企業に入社→総務部に配属



アンビ  
ジャス的

——学生時代

「高校時代は、英語の勉強を頑張りました。当時の目標は英語の先生。好きだった英語を学ぶため、関西外国語大学短期大学の英米語学科に進学しました。外国人講師や交換留学生たちとの交流を通し、物怖じせずに誰とも話せるようになってきたと思います。実際に英語で会話ができていたかはわかりませんが、雰囲気でも乗り切っていました(笑)」

——仕事について

「23才で地元に戻り出産後、造園会社を経て平成25年に店舗や住宅の設計・施工などをおこなうビコーインプレスに就職しました。中途採用者が多いので、入社後は、ほかの会社での経験やプライドをリセットするための研修が多かったです。「親切にすること。やさしくすること」など、改めて社会人として大切なことを学びました」

「あまり覚えていませんね…(笑)。でも「習ったことを忘れる」ということが大切だと上司から教わりました。教わった仕事をしっかり覚えれば、何を教わったのを忘れても自然と仕事ができるんです。その状態が理想的ですね」

「最初には教わったことは？」

「どんな仕事でも、わたしのいる部署だけで成り立っているということはありません。ほかの部署とも連携して会社全体の仕事の流れがスムーズになるような仕事をいつも心がけています」

「仕事をやるうえで大切なことは？」

「やりがいを感じるのには、事務作業で携わっていた現場の前を通ったとき、「こんな風に建物が立っただ」という驚きもありますし、「わたしは、この現場に携わっていたんだ」と、うれしい気持ちになります」

「担当している分野以外のことも目を向けて挑戦すること。目先のことしか見ないのではなく、顔を上げて一歩引いて全体を見ることが大切です。自分が活躍できる場所を見つけてチャレンジすることが大切

「やるがいを感じるのには、事務作業で携わっていた現場の前を通ったとき、「こんな風に建物が立っただ」という驚きもありますし、「わたしは、この現場に携わっていたんだ」と、うれしい気持ちになります」



——なるためには

「まわりの総務の人たちを見ると、常に先を読んで動く力に長けていると思います。いろんなことに気がつける人に向いている仕事かもしれませんね。お客様が来社されたときの対応もするので、笑顔も大切だと思います。学生時代は、いろいろな世代の人と話をし、多くの経験を積んでほしいです。観察力も身につくし、会話の引き出しも広がるし、相手に合った話し方ができるようになると思いますよ！」

伊藤 香織さん

昭和52年生まれ 関西外国語大学短期大学卒業

出身高校 メリノール女子学院高等学校

18歳 高校では英語を中心に学ぶ。卒業後、関西外国語大学短期大学部に進学。

35歳 ビコーインプレスに入社。総務部に配属される。

38歳 常に先を読んで動くことを心がけ、みんなが安心して仕事に取り組めるようサポート中!





AMBITIOUS #068  
有限会社まるは茶業  
工場長(茶業)

## 好きな人と おいしいお茶を飲むと 仲良くなれます

### 勤務先情報/ 有限会社まるは茶業

- 住所 四日市市水沢町3194番地3
- URL <http://maruhateas.com/>
- 勤務時間 8:00~17:00
- 休日 土曜日、日曜日、祝日、お盆、正月

アンビ  
ジャスの

### なるためには

- 必要資格 / 日本茶インストラクター ※必須ではない
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→お茶問屋に就職→日本茶インストラクターを取得

工場長

### 学生時代

「熱中していたものは特になく、何事もあまり続けられない中学時代を過ごしました…。何か熱中できるものはないかと、おいしいコーヒーを追いかけはじめたのが16才のとき。コーヒーの淹れ方にこだわったり、高校時代はコーヒーにはまっていたでしたね」

大学時代について教えてください。

「日本大学に進学し、生物や物理の基礎・環境問題について学びました。ほかにも、微生物を使った発電、土壌や畜産系の勉強もしましたね。当時はあまり興味がありませんでしたが、いまの仕事につながっているところもあります。ただ、当時は明確な目標もありませんでした…」

### 仕事について

「大学卒業後は、福島で農業の仕事をしたり、海外を放したりしました。いろいろな人との出会いを通して、『やりたいことが何かを探すより、何かをやらなければ』と思い、24才のときにお茶の道へ進みました。お茶の道に進み、最初に経験したことを教えてください。」

「お茶農家で働きはじめ、茶葉の刈り入れや荒茶(※製造の補助を経験しました。最初は知らなかったことが多すぎて、覚えることだらけでしたね。働くなかで、お茶問屋の仕事には、コーヒーと同じように茶葉の焙煎とブレンドがあることを知りました。現在は、お茶の仕入れや卸販売をおこなう、まるは茶業で働いています」



現在の仕事内容を教えてください。

「お茶農家さんが作った荒茶をブレンド・焙煎して味を作り、お茶メーカーさんに卸す仕事です。農家さんから届いたときは、茎や粉、茶葉のかたちもバラバラの状態なので、浮葉(ふわ)などを取り除いてかたちを整えていきます。その後、茶葉や粉などを選択して火入れをおこないます。火香をみて時間や温度など火加減を調整し、お茶を仕上げしていきます」

心がけていることは？

「温度や湿度、茶葉の様子によって火のはいり方が違うので、『香り』や『味』など常に五感を使っておこなうことが大切な仕事ですね」

### やりがい

「毎日、チーム全体でいい仕事ができるように段取りを組んでいます。1日の終わりに、『今日は仕事がつましく回ったな』と思えたときにやりがいを感じます。もちろん納得のいくお茶ができたときは達成感を感じます。ただ、自分が満足したからといって、お客様が満足するとは限りません。日々、勉強の世界ですね」

### なるためには

「必須となる資格はありませんが、お茶の歴史や成分、製造工程などを勉強し、日本茶インストラクターという認定資格をもっていると仕事に役立つと思います。あとは、現場で経験を積みながら仕事を覚えていけば問題ないと思います。高校生活は、夢中になれることを見つけ、とことん突き詰めてほしいですね。あとは、親と色々な話をしてください。親子関係は、とても大きな力になりますよ！」

お忙しいところ、ありがとうございます。

## 海老名 大樹 さん

昭和61年生まれ 日本大学生物資源科学部卒業

出身高校 菰野高等学校

- 18歳 コーヒーにはまった高校時代。卒業後は、日本大学に進学。
- 24歳 さまざまな経験を経て、お茶の道へ。お茶農家で働いた後、まるは茶業に入社。
- 29歳 温度や湿度などで適正な火加減が変わるため、現在も勉強の日々。



※荒茶:茶畑でとれた茶葉を蒸して揉んで乾かして加工したお茶のこと。お茶問屋は、荒茶をもとに仕上げ工程をおこなう

AMBITIOUS #069  
 四日市市役所  
 市役所職員(道路整備課)

# 新しい道を きり拓こう!!

## 勤務先情報/ 四日市市役所

- 住所 四日市市諏訪町 1-5
- URL <http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/>
- 勤務時間 8:30~17:15
- 休日 土曜日、日曜日、祝日

### なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 工業系の高校または、理系の大学に進学して土木について学ぶ→市役所の採用試験(技術職/土木区分)に合格して入庁→道路整備課に配属



アンビ  
ジャス的

### 学生時代

「中学生のころから土木関係の仕事に就きたいという思いがあり、専門的な知識を身につけるために四日市中央工業高校に進みました。施工管理や測量など、土木の世界で必要となるさまざまな基礎知識が勉強でき、いまの仕事でもいかせていると思います。高校卒業後は、四日市市役所に技術職(土木)の区分で入庁しました」

### 仕事について

「高校で学んだ基礎をもとに、現場で経験を積みながら、さらに勉強していくという感じですね。最初は先輩に現場へ連れて行ってもらい、現場のノウハウを教えてもらいました。わたしたちの仕事は、法律や条例にのっとっておこなうので、法律の知識も指導していただきました」

「どのような過程を経て、新しい道路は作られるのですか?」  
 「コンサルタントさんと作った新しい道路の図面をもとに、わたしたちが設計をし、協力業者さんに現場でものづくりをしていただきます。図面通り、納期通りに進んでいるか、工事を進めるなかで協議や打ち合わせを重ねて管理をしていきます」



「仕事をやるうえで心がけていることを教えてください。」

「道路工事はみなさんの税金でおこなっているため、最小限の予算で最大限の効果が発揮できるものを理想としています。わたしにとつて四日市は、人生の基盤になっている場所。育ててもらった恩返しとして、魅力的な街になるよう地元貢献していきたいと思っています」

### やりがい

「わたしたちは、完成した新しい道を最初に歩くことができます。工事前に撮影した写真と見比べると、計りしれない達成感を感じますね。市民のみなさんが新しい道路を利用している様子を見るときにも、やりがいを感じます」

### なるためには

「工業高校や専門学校、理系の大学で専門知識を学んでおくと、仕事の基盤ができると思います。その後、市役所の採用試験に技術職(土木)の区分で合格すると、市役所職員として働くことができます。仕事を始めて実務経験を積み、**土木施工管理技士**の資格を取得すると仕事に役立ちます。高校時代、みなさんにはコミュニケーション能力を養ってほしい。勉強と同じくらい、人と人とのつながりが大切な仕事です。よ**お忙しいところ、ありがとうございます**」

市役所職員

## 本郷 貴司さん

昭和55年生まれ

出身高校 四日市中央工業高等学校

- 16歳 土木系の道を志し、四日市中央工業高校に入学。土木の基礎を学ぶ。
- 19歳 四日市市役所に入庁。市民との接し方など、仕事に取り組む姿勢を学ぶ。
- 36歳 市民のみんなが快適な生活を送れるように、新しい道をきり拓く。





AMBITIOUS #070  
済生会松阪総合病院  
医療ソーシャルワーカー

# 想像力と 創造力!!

## 勤務先情報/ 済生会松阪総合病院

- 住所 松阪市朝日町1区15-6
- URL <http://www.matsusaka.saiseikai.or.jp/>
- 勤務時間 8:30~17:00
- 休日 土曜日、日曜日、祝日

アンビ  
ジャス的

## なるためには

- 必要資格 / 社会福祉士
- 主な進路 / 高校卒業→社会福祉士の養成課程のある大学に  
進学→社会福祉士の資格を取得→病院に就職し、医療ソーシャル  
ワーカーとして勤務



## 学生時代

「バスケット部に所属し、部活漬けの高校生活を送りました。部員が少なかつたからこそ、強い団結力が生まれたり、絆が深まったと思います。『仲間と同じ目標に向かって努力する』という貴重な経験ができました。両親が福祉系の仕事をしていたこともあって福祉に興味をもち、学校の先生とも相談して鈴鹿医療科学大学に進学しました」

## 大学時代のことを教えてください。

「介護保険などのさまざまな福祉制度、相談援助の技術について学びました。ほかにも、身体のことや病気のことなど、医療に関する知識も学びました。知識を学んだうえで実習に参加。実習期間中は、ソーシャルワーカーさんと一緒に面談やカンファレンスの場に同席してもらいました。3年の終わりごろからは、国家試験に向けた勉強が中心。おかげで、国家資格である**社会福祉士**を取得することができました」

## 仕事について

「現在は、済生会松阪総合病院で医療ソーシャルワーカーとして働いています。新しい福祉制度ができたり、これまでの福祉制度が改正されたりもするので、働きはじめのころは、日々の仕事のなかから学ぶことが多かったんです。この仕事は、患者さんから悩みを打ち明けてもらえる信頼関係を築くことが大切。話しやすい環境になるよう、自分が一方的に話すのではなく、患者さんの意見を聴く側に回るようにしています」

医療ソーシャルワーカー



## 現在の仕事内容を教えてください。

「社会的制度や地域の施設や機関などの情報を提供し、患者さんやご家族が抱えている悩みや不安を解消していく仕事です。金銭的な不安、退院後の環境調整など、さまざまな生活の場面で支援をしています」

## 仕事をすることで大切なことは？

「入院の患者さんの場合だと、まずは、入院した経緯、入院前の生活と家族構成などを尋ねます。このとき、ご本人やご家族が不安要素を自覚している場合は、利用できる制度を説明したりとアプローチしやすいです。難しいのは、その不安やリスクをご本人たちが自覚していないとき。わたしたちが今後の治療過程などを想定し、潜在的なリスクに対して先回りしてアプローチできたときは、専門職としてのよさを感じますね」

## やりがい

「患者さんやご家族の方から『ありがとうございます』とか『お世話になりました』という声をかけてもらえる、この仕事をしていてよかったという気持ちになりますね」

## なるためには

「高校卒業後、**社会福祉士**国家試験の受験資格を得られる大学に進学するのが一般的。この仕事は、患者さんの精神的ケアも重要になってきます。鈴鹿医療科学大学では、社会福祉士以外にも精神保健福祉士の受験資格も得ることがあります。この資格も取得することをおすすめします。高校時代は、人との関わりを大切にしてほしい。コミュニケーション能力は、どんな仕事に就くうえでも大切になってきますよ。お忙しいところ、ありがとうございます」

## 小倉 大志 さん

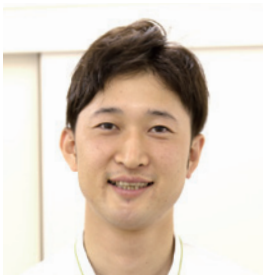
昭和63年生まれ  
鈴鹿医療科学大学保健衛生学部卒業

・ 出身高校 鈴鹿高等学校

18歳 バスケット部に所属し、部活に精を出した高校時代。鈴鹿医療科学大学に進学。

22歳 社会福祉士国家試験に合格。医療ソーシャルワーカーとしてのキャリアをスタート。

28歳 患者さんやご家族が抱えている不安を解消するため、日々の仕事に励む。



AMBITIOUS #071  
**エスペランス笹川**  
 児童指導員



笑ってなんぼ!

**勤務先情報/ 社会福祉法人アパティア福祉会**

- 住所 四日市市笹川2-118-1 (エスペランス笹川)
- URL <http://www.apatheia.jp/>
- 勤務時間 8:30~17:30(日勤)、17:30~8:30(夜勤)
- 休日 月8日(シフト制)

**なるためには**

- 必要資格 / 児童指導員、保育士 ※必須ではない
- 主な進路 / 高校卒業→児童指導員の養成課程のある大学に  
進学→児童指導員の資格を取得→児童養護施設に勤務

アンビ  
 ジャス的

児童指導員

——学生時代

「高校時代は、友達と遊んだ思い出が多いですね。あとは、フットサルチームをつくって活動したりと楽しい高校生活を送りました。高校卒業後は、気になっていた心理学が学べる愛知学院大学の心身科学部心理学科に進学しました」

大学時代のことを教えてください。

「児童指導員の資格取得をめざし、教育心理学や発達心理学など、心理学の基礎を学びました。生徒同士で心理テストをおこない、結果をレポートにまとめる講義もありましたね。教育心理学の講義で、児童養護施設で子どもの支援をしている人たちを紹介したビデオを見る機会があったんです。それを見て、『コレいいな!』と思ったのが、この仕事を志したきっかけ。児童指導員と認定心理士の資格を取得し、アパティア福祉会に就職しました」

——仕事について

「当会にはプリセプター制度というものがあり、最初の半年間から1年間にかけて、担当の先輩が新人に付けてくれるんです。その間に、仕事の流れや子どもたちとの関わり方、責任感などを叩き込まれました」

富井さんが働いている場所とは?

「現在は、小規模児童養護施設のエスペランス笹川で働いています。ここでは、いろんな事情で親と一緒に暮らすことができなくなったり、まっとうした子どもたちが生活しています。親がいなかったり病気があったりと理由はさまざまです」



現在の仕事内容を教えてください。

「掃除や洗濯をしたり、料理を作ったり、買い物に出かけたり、まるで主婦ですね(笑)。子どもたちが学校で授業を受けている様子を見に行くこともあります。学校の先生と連携をとることも大切ですね。いまは小学生から高校生までの6人が、この施設で生活しています。年齢に合わせた関わり方も大切になってきますし、なにより子どもと「信頼関係」を築くことが大切ですね」

仕事を通して子どもたちに伝えたいことを教えてください。

「社会に出たときに胸を張って生きていけるよう、善いことと悪いことの区別を日々の生活のなかで伝えたい。これは、『生きる力』を養う場所でもあります。施設を出たあと、自立した生活が送れるような支援を心がけています」

——やりがい

「やりがいをを感じるのには、子どもの笑顔を見ることができたとき。職員もみんな遊ぶことが好きな人ばかりなので、子どもと一緒に楽しみながら日々の生活を支援しています」

——なるためには

「児童指導員や保育士の資格をもっている就職の際に役立つと思います。なかには必須条件になっている施設もあります。高校卒業後は、養成課程のある大学に進学し、資格取得をめざして頑張ってください。わたしは大学時代に多くの人と関わりをもつことができ、刺激をもらいましたし、視野を広げることができました。みなさんも高校時代にはわりの友達とたくさん遊び、幅広い経験と知識を身につけてください」

お忙しいところ、ありがとうございました。

とみ い りゅう じ  
**富井 龍吏** さん

平成3年生まれ 愛知学院大学心身科学部卒業

◆ 出身高校 四日市西高等学校

18歳 友達と楽しい高校生活を送る。心理学に興味をもち、愛知学院大学に進学。

22歳 心理学を中心に学び、児童指導員と認定心理士の資格を取得。大学卒業後、アパティア福祉会に就職。

25歳 子どもたちの笑顔にやりがいを感じ、「生きる力」を伝える日々。





AMBITIOUS #072

おおしま家大工店株式会社  
大工

# 温故知新

## 勤務先情報/ おおしま家大工店株式会社

- 住所 三重郡朝日町大字柿2445-1
- URL <http://yadaiku.com/>
- 勤務時間 8:00~17:00
- 休日 日曜日

アンビ  
ジャス的

### なるためには

- 必要資格 / 本人のやる気
- 主な進路 / 高校卒業→大工店、工務店に就職→下積みを経験→棟梁

### 学生時代

「高校時代に熱中していたのは部活ですね。バレーボール部に入っていました。バレーボールはチームプレーが大切な競技なので、団結力や協調性が身についたと思います。工業高校だったこともあり、危険物取扱者、フォークリフト免許、機械製図などの資格も取得しました。卒業後は、子供のころから憧れていた大工の道に進みました」

### 仕事について

「おおしま家大工店で働きはじめ、いろんなことを見て学ばせてもらいました。まずは、鉋(かんな)や鑿(のみ)、鋸(のこぎり)など、基本となる道具の使い方を覚えるところから。最初は、木の支柱に木材を差し込むためのホゾ穴を掘ったり、家の中でもお客様の目につかない簡単な場所の作業から任せてもらいました。下積み時代に先輩から教わったのは、なんでもやってみることに大切さ。何事にも挑戦するよう心がけて仕事に取り組みました」

「最初に教わる大工の基礎となる技術を教えてください。」  
「最初に教わる技術は、『墨付け(写真1)』と『刻み』。墨付けとは、木材を加工するために記号や線などの目印をつけることです。その目印に合わせて、鉋や鋸を使って木材を加工することを刻みと言います」

「現在の仕事内容を教えてください。」  
「簡単に言うと、家を建てる仕事です。現在わたしは、初めて任された現場の完成に向けて努力しています」

### 家を建てる工程とは？

「まずは設計図をもとに材料を発注します。届いた木材のクセを見て、どの柱や梁(はり)に使うのが適しているかを考え、配置すべき箇所を決めます。その後、作業場で材料に墨付けをして刻んでいきます。刻み終わった材料は現場に運び、組み立てていきます」

「現場には、水道屋や電気屋などいろいろな業者さんが関わってきます。ほかの業者さんともコミュニケーションをとりながら作業を進めるように心がけています」

「何もなくた場所家が建ち、徐々に完成していく様子を見るのが仕事のやりがいですね。完成したときは、本当に大きな達成感を感じますよ。いまは自然な感じの家が失われつつあるので、わたしたちはこれからも天然木や土壁などの自然素材と昔ながらの伝統工法を用いた家を建てていきたいです」

### やりがい

「現場には、水道屋や電気屋などいろいろな業者さんが関わってきます。ほかの業者さんともコミュニケーションをとりながら作業を進めるように心がけています」



写真1

### なるためには

「大工になるのに特別な資格は必要ありません。挑戦する気持ちをもって努力し続けられる人に向いている仕事だと思います。ある程度常識と気構えさえあれば何とかなると思います。職人の世界なので、仕事を始めて一から覚えていくことばかり。わたしも、道具の使い方や現場での動き方も仕事を始めてから学びました。大工としてある程度の経験を積むと、大事な仕事を任せてもらえるようになります」

「お忙しいところ、ありがとうございます」

## 東條 佑生 さん

平成8年生まれ

出身高校 桑名工業高等学校

18歳 危険物取扱者など、さまざまな資格を取得。憧れだった大工の道へ。

19歳 道具の使い方、墨付けや刻みなど、大工としての基礎を学ぶ。

20歳 伝説が失われつつある昨今、自然素材と伝統工法を用いて、こだわりのある家づくりに励む。





AMBITIOUS #073

ダンサー(TYJD dance studio所属 / www.tyjd.co.jp)



帰国後は、順風満帆な活動ですね。  
 「安室さんのツアーと一緒に回った先輩がいるのですが、その先輩がドラカムのパフォーマンススリッダーを任されることになったんです。そのとき声をかけてもらい、ここ4年は専属パフォーマンスとして活動しています。だから、ぼくは本当に人の縁に恵まれてるんですよ(笑)」  
**ダンサーとして、ターニングポイントになった出来事はありますか？**  
 「安室さんのバックダンサーを経験したことです。母が沖縄出身で、親戚も沖縄にたくさん住んでいるんです。まわりからも『ダンスをやるなら、安室ちゃんのうしろで踊れるようになってね』ってずっと言われていました(笑)。それ以来、明確な目標としてもっていたので、実現できてうれしかったですね」

**ぼくは、『どうせ』っていう言葉が嫌いなんです。やる前から耳に入った情報だけで判断するのはよくない。挑戦する気持ちを大切にしてください！**

—プロとしての意識

「安室さんのツアーに参加していたときのことですが、ちょっとした事故もあり、ぼくはケガをしてしまったんです。あのステージは、自分の気持ちだけで立てる舞台ではないので、ケガをしても同じレベルのパフォーマンスをしないといけません。そのときに、この仕事の大きな責任感を実感しました。想像はしていたものの、身をもって感じましたね。ケガをしていることは隠して踊り、なんとか乗り越えることができました。あのときは、本当に恐ろしかったですね」

大きなステージで踊る責任感やレッスンには、舞台上に立っている人しかわかりませんからね。  
 「ものすごく大勢のスタッフと予算が動いていて、ぼくたちは、そのステージを任されて踊ることで評価やお金をいただくんです。頑張り張らないレベルの話じゃなく、やらなきゃいけないんですよ！もちろんぼくも好きでダンスをやっているんですけど、好きの延長でやっているだけだと、疲れたら簡単に辞めちゃうと思うんです。やっぱりプロ意識や責任感は重要ですね。昔はよくスノボにも行っていたんですけど、行かなくなりました。遊びのなかでケガをする可能性があるものは控えています」  
**—ダンサーという仕事**  
 「ダンスの振り付けやステージでのパフォーマンス、ダンス指導が主な活動内容。いろんなアーティストのバックダンサーとしてステージに立ち、自身の舞台でも踊っています。自身のショーケースでは、自分が表現したいことを自由に表現して踊ることが出来ます。でもバックダンサーは、求められるカラーが決まっているので、そこをなぞって対応できる力が必要。一般的な社会人と一緒に、どんな仕事も、求められたことに応えることが大切です」

**指導の際に心がけていることは？**  
 「ちょっと踊りたいだけの生徒には、気持ちよく楽しく踊ることに重きを置いてレッスンをしています。明確にプロをめざしている生徒には、プロとして活動するときに役立つ感覚が自然と身につくような指導を心がけています。三重で育った子供たちが、ここから羽ばたいて一人でも多く活躍してほしいですね」  
**—学生へのメッセージ**  
 「いまは情報が簡単にキャッチできる時代だから、いろんな情報をキャッチすることに頭がいかがわしく。ぼくが若いときは、その場に行かないとわからないことだらけでした。でも、目を合わせるからこそ産まれる何かがあったと思います。映像を見るのと足を運んで感じるのでは、格段の差がありますよ」



の り ょ う

## Ryo さん

昭和55年生まれ

**出身高校** 四日市高等学校

10歳 ダンス甲子園を見てJAZZダンスを習いはじめる。

21歳 海外に渡り、ダンスを学ぶ。帰国後、著名アーティストのバックダンサーを務める。

36歳 「とりあえずやってみる」という気持ちを大切に、各方面で活躍中！



将来に悩む高校生へ伝えたいことはありますか？  
 「ぼくは、『どうせ』っていう言葉が嫌いなんです。その言葉を使うことは、一歩手前で自分の価値観だけで判断してると思っています。やる前から耳に入った情報だけで判断するのはよくない。ぼくは、『ダンスをやるよ』と思ってから、考えて決断して行動するまでがすごく早かったです。いまでも、『とりあえずやってみる』という感覚は大切にしています。みなさんも、挑戦する気持ちを大切にしてくださいね！」  
**ありがとうございました。**



常にポジティブに!!  
 自分に自信を持って

第4弾

YOUTH  
 ユースフラッシュ  
 FLASH

三重出身の有名人インタビュー

四日市高等学校出身のダンサー、Ryoさんを独占取材！

中学や高校でダンスが必修科目となった昨今。華やかな舞台を夢見てダンスに励む若者も増えていると思います。ダンス黎明期からダンサーとしての活動を開始し、いまでは安室奈美恵さんやDreams Come Trueのバックダンサーとして活躍中のRyoさんにダンスに対するアツい思いを聞いてきました。

**—ダンスとの出会い**  
 「ダンスを始めたきっかけは、10才のときに見たダンス甲子園(※)です。当時は、ダンス甲子園の映像やレクチャービデオをすり切れるまで見ていましたね。でもダンスを習おうと思ったとき、あのころはダンススタジオの情報もなく、ダンスのジャンルもよくわかっていない状態。とにかく踊ればいいや！くらいの勢いで、母がお世話になっていたスタジオでJAZZダンスを習いはじめました。そのとき教わっていた先生が、いま所属しているTYJD DANCE STUDIOの代表なんです。このころは、ダンスを仕事にするなんて考えてもいませんでした(笑)」  
**高校時代のことを教えてください。**  
 「部活には入らず名古屋のダンスカンパニーへ毎日のように通い、高校生活はダンスつきの日々を送りました。高校生のときには、すでにダンスのインストラクターとして、このダンススタジオで生徒にレッスンをしていました」  
**本格的にダンスの道へ進むもうと思ったきっかけは？**  
 「通っていた名古屋のダンスカンパニーの先輩との出会いが大きいですね。その先輩は、海外でもダンス講演をしたり、バックダンサーとしても活動していました。先輩を見て、『なんてカッコよくてお洒落な仕事なんだ！』と思ったのが高校生のとき。『ダンス』と『仕事』が初めて結びついた瞬間ですね」

**—下積み時代**  
 「20才のときに、本場でダンスを学びたいと思い、ロスサンゼルスに行きました。そのロスでの1年間で、自分のなかでは修業期間ですね。いろんなダンスレッスンを受ける日々でした」  
**ロスでの経験を通してどのようなことを感じましたか？**  
 「自分のダンスレベルが上がったこともあると思いますが、意外と『見方によっては、本場でも勝負できるチャンスがある』と感じました。評価の仕方も日本はまだ偏っていたんですけど、ロスでは黒人の踊り方だけがすべてではなく、自分の良さをしっかり表現できれば評価してもらえたんです」  
**ロスに行つて壁を感じたというよりも自信につながったんです。**  
 「そうですね。とにかく、まず自分の良さを見つけてからが大切。それに気づいてからは、スムーズに自分を磨くことができたと思います」  
**—帰国後の活動**  
 「親しい先輩から声をかけてもらい、伴田来未さんのバックで踊ったのが東京での初仕事です。その仕事を通して出会った方から声をかけてもらい、安室奈美恵さんのオーディションに参加しました。オーディションには100人くらい集まったのですが、無事に合格することができたんです。そのときの合格者は2人だけ。正当な評価をされる場で認められたことは、大きな自信にもつながりました」

※ダンス甲子園：「天才・たけしの元気が出るテレビ!!」で放映されていた、高校生がダンスで競い合う人気企画